27　　まずは人を愛せよ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文法　比較形

読解　発言の趣旨をつかむ

　達　　　㆒、レ　レ　。神　宗　㆓　　忠　　一レ　。達　レ　㋐見、①未㆔ 嘗　不㆓　㆒。　、「②　　　　㆒。　、　　　　　「③莫レ　如レ　愛。」帝　、「威　㆓　　㆒、　。」達　、「④　レ　　。　レ　　レ　　㋑。」帝　レ　。

* 語注

達＝。の人。

起行伍＝軍隊（「行伍」）を率いる。

神宗＝北宋の第六代皇帝。

威＝威圧すること。

【原文】

　達　起　行　伍、　喜　読　書。神　宗　以　其　忠　実　可　任。達　毎　見、　未　嘗　不　従　容。嘗　問、「用　兵　当　何　先。」　対　曰、「莫　如　愛。」　帝　曰、「威　克　厥　愛、可　乎。」達　曰、「威　非　不　用。要　以　愛　為　先　耳。」帝　善　之。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

燕達は〔　　　〕を好み、〔　　　〕な態度で神宗の信頼を得ていた。神宗が〔　　　〕の要点を尋ねると、燕達は「兵士たちを〔　　〕することが第一だ。」と答えた。

問二　波線部㋐・㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい

〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　チェック問題　［比較形］

⑴次の表を完成させよ。〈１点×４〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ㆔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　於 ㆒ | | Ａ　不㆑（若）㆑ | | 〜㆓ 於（于・乎）㆒ | |
| Ａより～であるもの︵こと︶はない。 |  |  |  | ＡはＢよりも～だ。 |  |

⑵次の文の１を書き下し文にし、２を現代語訳せよ。〈２点×２〉

1　霜　　　　　　　　　　　　　於　二　　　。 （杜牧・山行）

2　百　　不㆑ ㆓　　　　　　　　　　　　　　一　㆒。 （漢書）

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四 傍線部①は「今まで一度もゆったりと落ち着いた態度でないことはなかった」という意味である。これに従って、書き下し文にせよ。ただし、「従容」は形容動詞「従容たり」として読むこと。〈５点〉

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②とあるが、神宗はどのようなことを尋ねているのか。二十字以内で答えよ。〈９点〉

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六 傍線部③について、

⑴書き下し文にせよ。〈５点〉

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（。」と。）〕

⑵現代語訳せよ。〈８点〉

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七 傍線部④の解釈として最も適当なものを選べ。〈７点〉

ア　兵士たちが恐れない将軍はいない。

イ　兵士たちを恐れさせることも必要だ。

ウ　兵士たちを決して恐れさせてはいけない。

エ　兵士たちが恐れることはほとんどない。

〔　　　〕

【解答】

問一　読書／忠実／用兵／愛

問二　㋐＝まみゆる　㋑＝のみ〈４点×２〉

問三　⑴〈１点×４〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ㆔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　於 ㆒ | | Ａ　不㆑（若）㆑ | | 〜㆓ 於（于・乎）㆒ | |
| Ａより～であるもの︵こと︶はない。 | Ａより～︹なる︺は莫し | ＡはＢに及ばない。（ＡよりＢの方がよい。） | ＡはＢに如かず | ＡはＢよりも～だ。 | ＡはＢよりも～ |

⑵　１＝霜葉は二月の花よりも紅なり。

　　　　　２＝百聞（数多く話に聞くこと）は一見（一度見ること）に及ばない。〈２点×２〉

問四　未だ嘗て従容たらずんばあらず。〈５点〉

問五　軍隊を率いるときに最も重視するべきこと。（20字）〈９点〉

問六　⑴　愛に如くは莫し（。」と。）〈５点〉

　　　⑵　兵士たちを大切にすることに及ぶものはありません。〈８点〉

問七　イ〈７点〉

【現代語訳】

燕達は軍隊を率いていたが、書物を読むことを好んだ。神宗皇帝は彼が〔＝（燕達が）〕忠実で（その職務を）任せることができるとと考えていた。燕達が（神宗に）お目通りするたびに、今まで一度もゆったりと落ち着いた態度でないことはなかった。（神宗が燕達に）以前に尋ねたことには、「軍隊を率いるときに、何を第一にするべきなのか。」と。（燕達が神宗に）答えて言うには、「（兵士たちを）大切にすることに及ぶものはありません。」と。神宗が言うには、「（兵士たちを）威圧することが、その大切にすることに勝る（と私が考える）のは、かまわないか。」と。燕達が言うには、「（兵士たちを）威圧することも用いないのではありません。（しかし）要するに（兵士たちを）大切にすることを第一にするだけです。」と。神宗はこれ〔＝（燕達の答え）〕に納得した。

【書き下し文】

をこせども、をむをぶ。のにしてずべしとふ。ゆるに、だてたらずんばあらず。てふ、「をゐるににをかにすべき。」と。へてはく、「にくはし。」と。はく、「のにつも、なるか。」と。はく、「もゐざるにず。はをてとすのみ。」と。をしとす。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「用兵当何先。」（２～３行目）を書き下し文にせよ。

問２　「可乎」（４行目）をすべてひらがなで書き下せ。

問３　「要以愛為先耳」（４～５行目）を言い換えると、次のようになる。空欄Ａ・Ｂには「愛」「威」のいずれを入れるのが適当か答えよ。

　　［ Ａ ］不如［ Ｂ ］（［ Ａ ］は［ Ｂ ］に如かず）

問４　燕達についての説明として最も適当なものを選べ。

ア　兵士たちを大切にし、その上で威圧するのがよい、と考えていた。

イ　兵士を威圧することを嫌い、軍隊を率いることを拒んでいた。

ウ　読書を好み、書から学んだ兵法で軍隊をうまくまとめていた。

エ　迅速な行動力によって、神宗からの絶大な信頼を得ていた。

【補充問題解答】

問１　兵を用ゐるに当に何をか先にすべき（。」と。）

問２　かなるか（。」と。）

問３　Ａ＝威　Ｂ＝愛

問４　ア